

平成 2 7 年第 6 回  
上小阿仁村議会定例会  
会 議 録

平成 2 7 年 1 2 月 1 5 日 (開会)

平成 2 7 年 1 2 月 1 7 日 (閉会)

13時40分 再開

○議長（小林信） 再開いたします。

○議長（小林信） 休憩以前に引き続き一般質問を行います。次に、5番 齊藤鉄子君の発言を許します。5番、齊藤鉄子君。

（5番 齊藤鉄子議員 一般質問席登壇）

○5番（齊藤鉄子） 私は、TPP対策について質問をさせていただきます。

9月定例会議会の際にもTPPについて質問いたしまして、その時に、村長の方からご返答をいただいておりますけれども、その時には、まだ、合意となっておりますではありませんでした。いよいよ10月5日に大筋合意となり、関連対策大綱が決定となりました。まだ、大まかな内容で、これから色々肉付けされて具体的な対策が示されると思います。

行政報告の中では、今後、具体的な取組方策が示されるので、将来の不安を払拭する施策に取り組むとしておられます。具体的には、現時点でどんな施策を考えているのか示してもらいたいと思います。

TPPは農業だけではなく、いろいろな分野にも影響を及ぼすことはご存知のことと思いますが、中山間地帯である村にとっては、計り知れない影響が出てくると思います。

国では攻めの農林水産業を掲げ、6次産業化や輸出など、成長産業とするとしておりますが、前向きなのは、一部の農家で、多くの農家は不安に思っております。

また、2年後には減反廃止を踏まえ、米の作付けは農家の自主性の判断に任せるということでしたが、そうなると、米の価格はどうなるのか不安があります。他の地域では、先を見据えた対策が図られております。産地間競争になることを見据えて、東成瀬村では、米は絶対大事であると認識をし、村直営のミニライスセンターを作り、村職員があきたこまの販売戦略に力を入れているとのことでありました。勿論、土壌分析に始まり、食味値75以上、80以上など価格に段階をつけて販売をしているとのことでありました。

また、米だけでなく畜産にも力を入れて、村直営の畜舎で繁殖牛、肥育牛を飼育しているとのことでありました。

他の地域のこと踏まえて、再度、上小阿仁の米のブランド化を提案したいと思っております。

9月の質問の時にも上小阿仁産のブランド米をと話しておりました。村長の答弁では、関係機関と協議しながら進め、より良い方向へ持っていきたいとのことでしたが、その後の進展はどうか伺いたいと思っております。

この地域で作られる自然豊かな美味しい空気ときれいな水の里で、寒暖の差のある気候の地域でとれる農産物は、美味しいと評価されております。

あきたこまちのブランド化を図るために、土壌分析に始まり、条件に合った施肥体系など様々な取り組みが必要であると思います。容易ではないと思いますが、如何ですか。

**議長（小林信）** 答弁を許します。村長。

（小林悦次村長 登壇）

**○村長（小林悦次）** TTP対策について、それから、ブランド米いうふうなことについて、2つのご質問だと思います。

最初にT P P対策についてでございます。

平成27年11月25日にT P P政策大綱が示されまして、農林水産関係では、攻めの農林水産業への転換と経営安定、安定供給のための2本立てによる新農政時代を築くとされております。農林産業の成長産業を一層進めるために必要な戦略、さらに海外展開、事業拡大や生産性向上を一層進めるために必要となる政策を、平成28年の秋を目途に具体的な内容を詰めることとされていることから、経営感覚に優れた担い手の育成や地域の強みを生かした技術革新を起こす支援策による国際競争力を高める政策が中心となる見込みですので、村としても農産物を対象とした輸出、そして体験型農業への転換等、観光と一体的な地域づくりを検討したいというふうに考えております。

また、作業効率等を考慮したICT活用の基盤整備等も予想されることから、低コスト高生産に向けた事業を検討することが望まれております。今後、国、県及び関係機関からの意見要望等の事情聴取等が実施されるものと思いますので、農家の皆様方と共に知恵を絞りながら活路を見出していきたいと考えておりますので、ご協力をお願いしたいというふうに思っております。

続きまして、ブランド米、村独自のブランド米についてであります。

県では、あきたこまちデビュー30周年を機に、秋田米ブランドの再構築を図るため、あきたこまちの極上商品づくりを目的とした販売促進を平成26年度から展開をしております。

J A全農あきたは、県内全農J Aから出展されたあきたこまちの食味コンテストを実施しまして、上位5農家のお米を限定米「ザ・プレミアム・ファイブ」と銘打って精米2kgを1,500円という高値で、都内や県内で販売し、商品の高付加価値化を図っております。

これにつきましては、平成27年、先日であります12月1日、ご存知のとおり「第3回美味しいあきたこまち食味コンテスト」が開催されまして、本村の沖田面の原田誠悦さんのあきたこまちが最優秀賞を受賞されております。

今後、受賞された原田さんは、精米で販売するときにコンテスト最優秀賞受賞のネーミングを活用できますので、ブランド米としての付加価値を活用していただき、自主販売等による6次化へ向けて積極的に取り組んでいただきたい

というふうに考えております。

村独自のブランド米につきまはしては、元気な中山間事業にある6次化事業に農家の皆様方が積極的に取り組んでいただきたいというふうに考えております。

収益を上げるためには農家個々の生産物の規格統一や付加価値を高めた生産物で販売を行わなければならないというふうに考えております。

先進地では、NPO法人を立ち上げまして、地域の特産品を独自の認定基準により、品質を認定し、直販や通販を行っております。特に、米だけの販売は非常に厳しいため、村のこだわりと地域資源を活用した認定基準により栽培し、品質の保証が必要不可欠であり、合わせて、加工品の開発も行う必要があることから、農家の法人化と6次化による農産物のブランド化に取り組む必要があるというふうに考えておりますので、今後ともご指導ご協力をお願いしたいというふうに思っております。

いずれ、ブランド化の取り組みにつきまはしては、先ほど、議員からお話が合ったとおり土壌等の分析等々、いろんな形での認定基準を作っていかなければいけない、その時に、個人でやるだけではなかなか難しいものがありますので、これはやっぱり法人化等、若しくは、NPOも含めてですけれども、そういうふうな法人によって組織を作って、基準を作り、キチットした品質保証をして、コンスタントな数量を販売するというふうなことでないと、なかなか難しいものがあるというふうなことを考えております。

ただ、先ほどお話ししたとおり上小阿仁村というのは、最優秀賞を取った訳です。一番美味しい米が取れる訳ですので、それを全面に押し出しながら、1人の人が最優秀賞を取れるということは、上小阿仁村にとっては他の人も取れるということだ訳です。そこら付近を少し全面に出しながら、これから法人化も含めてやれば、これから生きる道は少し開けてくるのではないかというふうに思っておりますので、農業委員会も含めて、農業諸団体の方々にもいろいろご提言いただきながら進めさせていただきたいというふうに思いますので、よろしく願いをしたいと思っております。

○議長（小林信） 齊藤鉄子君。

○5番（齊藤鉄子） 村長が、今、おっしゃられたように、あきたこまちの食味コンテストで沖田面の方が最優秀賞、日本一美味しい米になったということで、上小阿仁村にとっては、凄く明るいニュースだと思っております。

でも、プレミアムをつけて販売するにしても、その原田誠悦さんの手元に入るのは平均した均しの価格しか入らない。特別高く販売出来るかといえば、そうではないということでありましたので、それは申し添えたいと思っております。

個人的に売るのであれば、少しは高く売れるかなとは思いますが、そういつ

たのでありますので、私は、午前中に質問された伊藤議員のふるさと納税のお返しですが、その点にも上小阿仁産のブランド米を作れば、そういったのにも活用できるのではないかなということでもあります。もちろん米の消費量は、人口の減とか、また嗜好の変化など、消費量はドンドン減ってまいります。あるところの試算によりますと、2015 年を 100 とした場合に 2030 年には 75.23 まで減るのだそうです。これは我が村の消費は、米を作っていても農家としては、米だけに頼ってはいは駄目だなということは分かっておりますけれども、少しでも高く付加価値をつけて高く売るためにも、その上小阿仁村で、村として関わってやっていけるブランド産の米作りをとということで、申し上げた訳です。

そして、先ほど村長が観光と一体となった農業とおっしゃいました。これは、私も凄く賛成でありまして、上小阿仁村は自立した小さな村であります。この村にあった生きる道、あまり都会化していない田舎の良さを活かした、観光客でもいいですし、今年の八木沢プロジェクトにありましたようにお客さんが来て、この上小阿仁の自然とか、人に触れることでホットすると言いますか、心休まるというか、そういった村づくりをしていければ、もっと上小阿仁村は生きる道があるのではないかなと思っております。

ですので、そのためにも、やっぱりこの村で取れる米、もちろん米だけでなく農産物を含めてですが、そういった面にも力を入れて本当に美味しいのだと、自信をもって勧めることが急務だということをやっていきたいと思いますので、ぜひ、難しいというお話でしたけれども、考えていただければ有り難いなと思いますが、如何でしょうか。

○議長（小林信） 村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） いずれ上小阿仁村にとって農林業につきましては、一次産業、これは大変大切なものであります。

これをなくして村はなくなってしまうのではないかというふうに心配をしておりますので、これを基盤にして 1 次産業、2 次産業、3 次産業、合わせて 6 次化というふうなことで、全国でキチット 6 次化に成功しているところがありますので、いわゆる上小阿仁村よりももっともっと条件の悪いところで、チョットしたところから活路を見い出して産業化が起きていますので、何とか上小阿仁については、少なくとも先ほどお話したとおり食味については一番美味しい米が取れた訳ですので、これを利用しないことはないというふうに思っています。

それと合わせて、それ以外の農産物をキチット複合的に開発しながらやっていくというふうなことで、先日も少しお話をさせていただいたとおり、今、道

の駅の方に特産品を活用した3品以上を、3月までは少し開発をさせていただきたいというふうなことで、そういうのも含めて農業の6次化につなげていければというふうに考えておりますので、なんとかご協力いただくようお願いを申し上げます。

○議長（小林信） 齊藤鉄子君。

○5番（齊藤鉄子） 村長の方からお答えをいただきましたので、次の質問に移らせていただきます。

○議長（小林信） はい、齊藤鉄子君。

○5番（齊藤鉄子） 2つ目の質問ですが、今年の7月に策定された上小阿仁村教育大綱の中に、学校教育の充実と教育環境の整備として、小規模校であることのメリットを生かした教育活動を推進し、生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばし、将来に向けてたくましく成長していく基礎を培うために地域とともに歩み、創造力を育む活力ある学校教育とあります。

また、単独立村を掲げている村であるので、きめ細かい指導が出来る。個別指導の徹底や集団学習を補完する情報通信技術の活用など、児童生徒への教育の充実を図るとしております。

こういったことを踏まえまして、村の教育水準もかなり高く充実していると聞いておりますが、議員研修で東成瀬村の鶴飼教育長のお話を聞いてまいりました。東成瀬村は学力の優れている村として、全国的にも有名であります。平成26年度には400人、27年には420人、70団体もの人達が視察に訪れているとのことでありました。

そして、東成瀬村では、平成20年から村営の学習塾を実施しておられました。アンケートをとった結果、やって欲しいとの要望があり、実行したとのことでありまして、教師を村で採用して、子ども達には無料で教えているとのことでありました。

そこで、上小阿仁村においても、村営の学習塾の開設を考えて見ては如何なものでしょうかと提案いたします。

勿論、学力が全て、人の生きる力になるとは思いませんが、教育に上限はないし、ひとつ上のレベルを目指す意味でも必要だと思います。将来を生き抜くたくましい子どもを育てるためにも、一人ひとりの個にあった質の高い教育が重要であると思います。また、合わせて中学生の海外研修も提案いたします。

子ども達に異質な文化、郷土の見直し、国際理解など、頭の柔かい時期に目を見て触れることで、いろいろな発見、素晴らしい体験になることと思います。

将来の村を担う子ども達、村を巣立っていく子ども達に、中学生の時期に海外での研修生活は、生涯の良き思い出となり、また、村を誇れる村として位置付けられることと思います。検討していただきたいと思っております。

これは、私が議員になってから1回、前にも質問したことがございます。

教育長、よろしく願いいたします。

○議長（小林信） 教育長。

（高橋充教育長 登壇）

○教育長（高橋充） 質問にお答えします。

学校教育は、最近、学校が主体性を持ちながら自治体や地域が関わっていく傾向が、ますます強くなっております。そういう意味からも、村営塾は、とても魅力のある提案だというふうに思います。

塾にもいろいろな形態がありますが、齊藤議員が言われる教育水準の引き上げということでは、学力向上のための塾が考えられます。本村は少人数で行われている教育がとても良く、先生方との関わりも深く、大変充実したものと認識しておりますが、村内外から支援を得て日頃教わることのない方々に教えてもらうことで、多少の緊張感もあり、新鮮さも加わってとても大きな意義があるものと思います。

教科や時期、方法などを学校の意向を伺いながら検討したいと思います。

もう少し広く塾というものを捉えれば、例えば、国際交流のための塾というようなものも考えられます。10月に小中学校で近隣から複数の外国人教師を招いて、インターナショナルデーを実施しましたが、とても好評でありました。それを拡大した形で、例えば、協力できる外国人教師や留学生等を招いて、宿泊などを伴って外国人と生活をし、異文化を理解し見聞を広げるということもあるのではないかというふうに思います。

こういうことを経験して、大きな自信につながればというふうに思いますので、こちらの方も考えていきたいというふうに思います。

それから課題がたくさん予想されますが、例えば、村内の有識者を招いてお話を伺って、村の歴史や現状を知り、子ども達が討議をして、村の将来を考えるというような未来のための塾のようなものも考えられると思います。いずれにしても、学校に主体性を持っていただきながら、方針や意向を尊重して自信を持って生活でき、生きる力を育む村営塾のようなあり方を模索していきたいと思います。さらにいいアイデアがあったら、是非、お知らせいただきたいと思います。

以上です。

興奮して飛ばしてしまいました。続いて中学生の海外研修、台湾との交流というご提案でありました。申し訳ありませんでした。

齊藤議員から幾度となく中学生の萬巒郷への交流はどうかというお話がありますが、ご存知のとおり、萬巒郷への研修については、北林孝雄氏からの寄付により実施されているものであります。

研修は、北林氏の意向により、一般と青年とで実施されようと言われております。

去る10月19日に萬巒郷の訪問団が村に来られましたが、その時、林郷長は「今後は学生の交流を行いたい」という趣旨の話をされておりました。萬巒郷の意向も踏まえまして、子ども達の研修について北林氏と相談させていただきたいと思っております。

仮に研修を実施するとなれば、中学生を対象とするのが良いのではないかと、いうふうに考えております。

また、今後は萬巒郷への研修とは別に若い人達に文化に触れ見識を深めて貰うため、高校生などを対象にした欧米への海外研修などが実施できればいいなというふうにも考えておりますので、よろしくお願ひします。

以上では。失礼しました。

○議長（小林信） 齊藤鉄子君。

○5番（齊藤鉄子） 前向きなご答弁をありがとうございます。東成瀬村でも、その英語合宿と言いますか、秋田大学から国籍の違う学生さん、留学生に来てもらって宿泊合宿をしておられるようです。それは8月の上旬に小学校6年生と中学校3年生全員が参加ということでありました。

国際理解が深まったり、色々国籍が違う訳ですから、国際交流が出来るし、英語力のアップ、コミュニケーション能力が凄く高まるとか、色々良いところがたくさんあるようでございました。是非、それはこれから国際化の時代が予想されます。この村にいてもいろんな人達と交流出来る、また国際的に有名になれる方も、有名と申しますか、海外で活躍される方もたくさん出るかも知れませんが、その中でも、上小阿仁村で培われた、そういう教育は凄く将来にとっても役立つことと思います。

それから、それだけでなく、また、高校生にも海外研修ということを考えておられるようでしたので、それも大変素晴らしいことだと思いますので、是非、実現していただきたいと思ひます。

それから、台湾の方達の訪問団がいらした時に、私も一緒に小中学校の方に訪問させていただきましたが、その時、北林さんご夫妻が陰でこそっとおっしゃられたのですが、これからは子ども達の交流かなということも話されておりましたので、そういった面で資金を活用できるような話し合いをされると、そういうお金を活用出来るのではないかなと、その時、感じましたので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上、私の質問を終わります。